

小学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。
- 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①具体的な活動や体験の充実

- ◇児童の生活圏にある人、社会、自然を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動を重視する。
- ◇試行錯誤したり、納得のいくまで追究したりできる体験活動の充実を図る。

②気付きの質を高める学習活動の充実

- ◇体験の中で気付いたことを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法で表現する場を設定する。
- ◇体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視する。
- ◇伝え合い交流する場を工夫する。
- ◇気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行う。
- ◇気付きの質を高める手段の一つとして、児童の発達段階に応じて、記録、振り返り、表現、交流などの場面でICTを利用することも考えられる。

③学びの連続性の保障

- ◇各教科等との合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。